

第7章 計画の推進方法及び目標値の設定

1 計画の推進方法

(1) 都市再生特別措置法における立地適正化計画の評価について

都市再生特別措置法により、立地適正化計画を策定した場合は、おおむね5年ごとに、施策の実施の状況などについての調査、分析及び評価を行うよう努めるものとされています。

都市再生特別措置法第84条

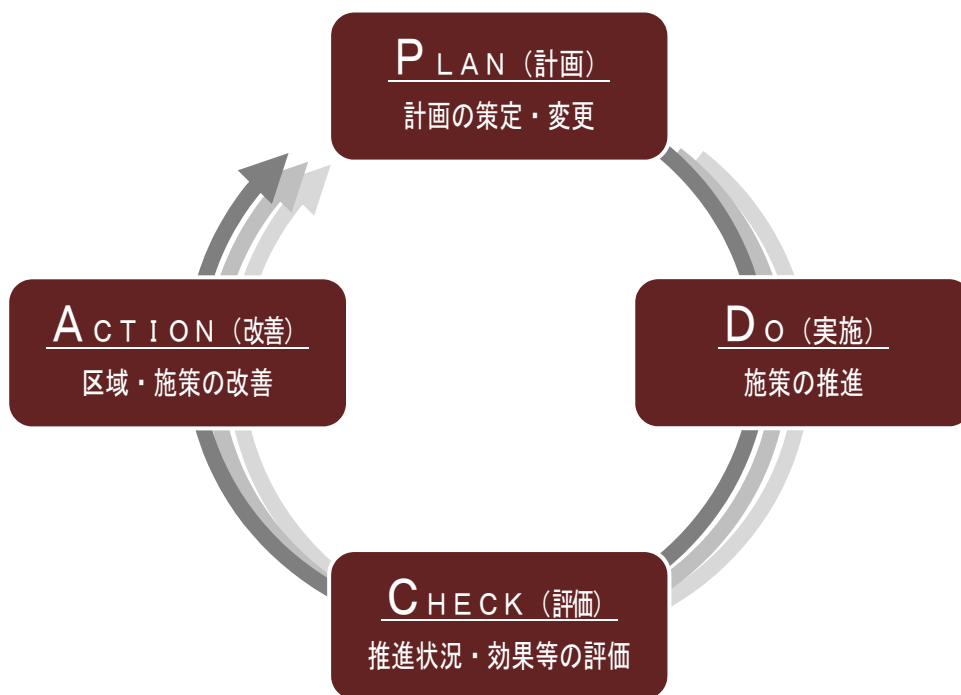
市町村は、立地適正化計画を作成した場合には、おおむね五年ごとに、当該立地適正化計画の区域における住宅及び都市機能増進施設の立地の適正化に関する施策の実施の状況についての調査、分析及び評価を行うよう努めるとともに、必要があると認めるときは、立地適正化計画及びこれに関連する都市計画を変更するものとする。

(2) 計画の進行管理について

本計画の計画期間は2039年までとなっており、将来目標である『まちと自然が調和した多様な暮らしを選べる生活都市～笑顔・活気・うるおいがあふれた、選ばれ続けるまち～』の実現に向け、数値目標を設定します。おおむね5年毎に計画内容を見直し、効果的な取り組みを継続的に推進するため、以下の進行管理を行います。

—PDCAサイクルによる進行管理—

本計画では、おおむね5年ごとに、PLAN（計画）—DO（実施）—CHECK（評価）—ACTION（改善）のPDCAサイクルによる進行管理を行い、施策の実施による効果や課題を評価し、必要に応じて見直ししながら計画を推進します。

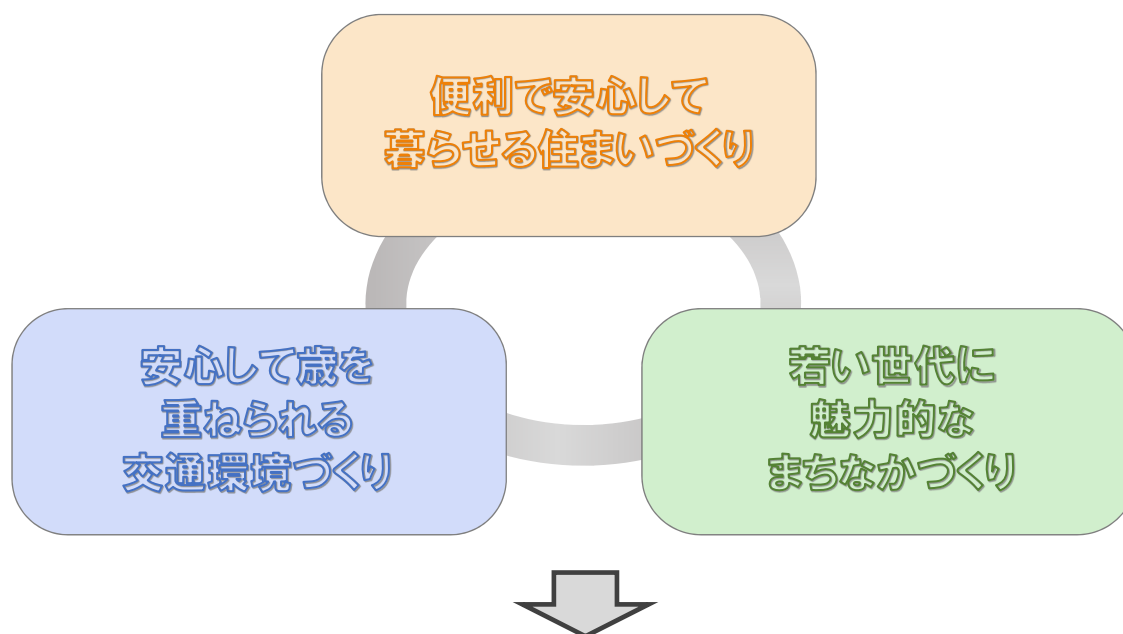


■計画の推進方法のイメージ

2 目標値の設定

(1) 基本的な考え方

評価指標を設定するにあたって、本計画の必要性や妥当性を市民や関係者などに示すためには、客観的かつ定量的に評価できる指標を設定し、その達成状況を確認し、効果的な取り組みを継続することが重要です。こうした観点から、本計画のまちづくりの方針である「便利で安心して暮らせる住まいづくり」「若い世代に魅力的なまちなかづくり」「安心して歳を重ねられる交通環境づくり」の実現状況を評価するための評価指標及び目標値を以下のとおり設定します。



評価指標の設定に関する基本的な考え方

- 暮らしたくなる生活環境の提供により持続的な居住地づくりを進め、居住誘導区域内の人口の状況が把握できる指標を設定します。
- 若い世代や子育て世代にとって、利用したい場所（施設）が拠点周辺に集まっている状況が把握できる指標を設定します。
- 居住を誘導する地域や拠点の移動利便性が維持・確保されるよう、公共交通の充足状況が把握できる指標を設定します。

(2) 目標値の設定

目標 1 居住誘導区域内の人口密度

国立社会保障人口問題研究所の推計では、目標年次である 2039 年の江南市の総人口は約 82,000 人になると予測されており、居住誘導区域内の人口は約 39,000 人、区域内の人口密度は約 62.5 人/ha になる見込みです。

この人口減少予測に対し、人口減少抑制策の実施を見込み、今後のめざすべき将来の方向と人口の将来展望を示した江南市人口ビジョンの将来人口推計では、2039 年の総人口は約 90,000 人となる見通しを示しており、居住誘導区域内の人口は約 42,000 人、区域内の人口密度は約 68.4 人/ha になる見込みです。

本計画では、人口減少抑制に対する上位・関連計画である「第 6 次江南市総合計画」と「江南市人口ビジョン」で示された推計とあわせ、本計画の推進によって居住誘導区域内の人口密度の低下を抑制し、2039 年の目標年次の人口密度は 71.2 人/ha を目指します。

評価指標	現況値※	中間値 2029 年	目標値 2039 年
居住誘導区域内の人口密度			
人口減少下における居住誘導区域内の人口密度の状況を検証	73.1 人/ha	71.7 人/ha	71.2 人/ha

※現況値は国勢調査（平成 27 年）による。

目標 2 都市機能誘導区域内の誘導施設数

都市機能誘導区域の誘導施設は、今後整備が予定されている施設や老朽化する公共施設への対応などを考慮して、2039 年の目標年次までに 6 施設の立地を目指します。

評価指標	現況値	中間値 2029 年	目標値 2039 年
誘導施設数			
都市機能誘導区域内の誘導施設の立地状況を検証	1 施設	4 施設	6 施設

目標 3 居住誘導区域内のバス停数

現在、居住誘導区域内において 1 日あたり片道 30 本以上の運行頻度を有するバス停が 17 箇所あります。居住誘導区域と中心拠点間を結ぶバス路線の移動利便性を確保するために、居住誘導区域内のバス停数は現状の水準の維持を目指します。

評価指標	現況値	中間値 2029 年	目標値 2039 年
居住誘導区域内のバス停数			
居住誘導区域内における 1 日あたり片道 30 本以上のバス停の状況を検証	17 箇所	17 箇所	17 箇所

【目標達成により期待される効果】

目標1から目標3が達成されることによって鉄道駅を中心とする区域に都市機能が集積し、それに伴って居住誘導区域内における人口密度やバス運行サービスが維持され、鉄道駅を中心にまちなかの魅力が高まっていくものと考えられます。このように目標達成によって、拠点への都市機能の集約や交通ネットワークが確保された、利便性の高いコンパクトなまちづくりが実現されます。

今後の人口減少に伴って、鉄道駅の乗降客数も減少していくことが懸念されますが、鉄道駅を中心にまちなかの魅力を高めることで、鉄道駅自体の乗降客数の減少も抑制することが期待されます。第6次江南市総合計画では、2027年における鉄道駅の乗降客数の目標値を36,800人/日と設定しています。こうした3つの目標を達成することにより、鉄道駅の乗降客数を2039年まで維持されることが期待されます。

	現況	2027年 [※]	2039年
鉄道駅の乗降客数			
江南駅及び布袋駅における鉄道の利用状況を検証	36,000人/日	36,800人/日	36,800人/日

※第6次江南市総合計画より。